

プレスリリース

平成13年度食料品消費モニター第4回定期調査結果の概要について

調査時期: 平成14年1月

調査対象者: 食料品消費モニター 1,021名

(全国主要都市に在住する一般消費者)

調査方法: 郵送によるアンケート調査

回収状況: 1,005名 (98.4%)

テーマ 1. 食生活・欠食・間食・偏食について

1. 食生活の満足度

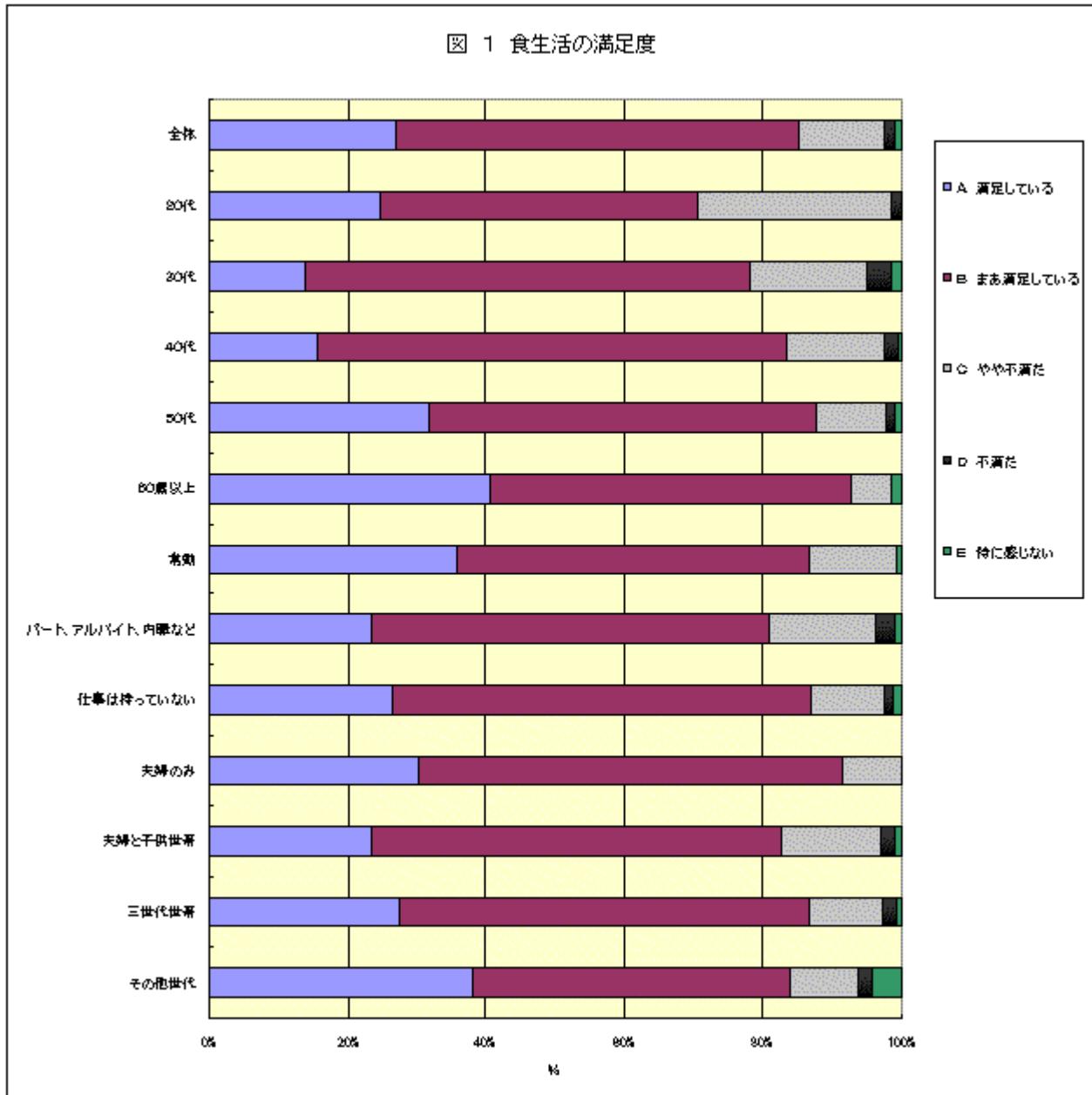
現在の食生活に満足を感じているか聞いたところ、「まあ満足している」と回答する人が最も多く58.2%、次いで「満足している」27.1%、「やや不満だ」12.1%となっている。

食生活に満足している(「満足している」、「まあ満足している」)とする人は85.3%となっている。

年代別にみると、50代、60歳以上は「満足している」と回答する人が多く、それぞれ32.0%、40.8%となっており、食生活に不満を感じる(「不満だ」、「やや不満だ」)と回答する人は20代が29.4%と最も多く、年代が高くなるほど減少傾向にある。

職業別にみても食生活の満足度の傾向は変わらない。(図 1)

図 1 食生活の満足度



(注)グラフは左からA B C D Eの順に並べている。

「常勤」は、「常勤(自営業を含む)」を表し、

「夫婦と子供世帯」は、「夫婦と子供(片親と子供も含む)世帯」を表す。

2. 欠食、間食(夜食を含む)頻度について

欠食の頻度

あなた又はあなたの家庭で欠食をするか聞いたところ、「しない」とする人が最も多く43.6%、次いで「ほとんどしない」28.7%、「たまにする」17.9%となっている。

欠食を「する」('よくする'、「たまにする')は24.9%、「しない」('ほとんどしない'、「しない')は72.3%となっている。

世帯別にみると、どの世帯でも「しない」とする人が40%以上と多く、特に「夫婦のみ世帯」は50.9%と最も多く、それに関連し、「よくする」は2.2%と最も少ない。また「ほとんどしない」は「三世代世帯」が最も多く32.6%となっている。

間食(夜食を含む)の頻度

あなた又はあなたの家庭では間食(夜食を含む)をするか聞いたところ、「たまにする」とする人が最も多く40.8%、次いで「よくする」39.4%、「ほとんどしない」14.9%となっている。

間食(夜食を含む)を「する」('よくする'、「たまにする')は80.2%、「しない」('ほとんどしない'、「しない')は19.0%となっている。

世帯別にみると、「よくする」とする世帯は「三世代世帯」が最も多く44.0%、「たまにする」は

「夫婦と子供(片親と子供も含む)世帯」が最も多く42.3%、「ほとんどしない」は「夫婦のみ」が最も多く20.5%となっている。

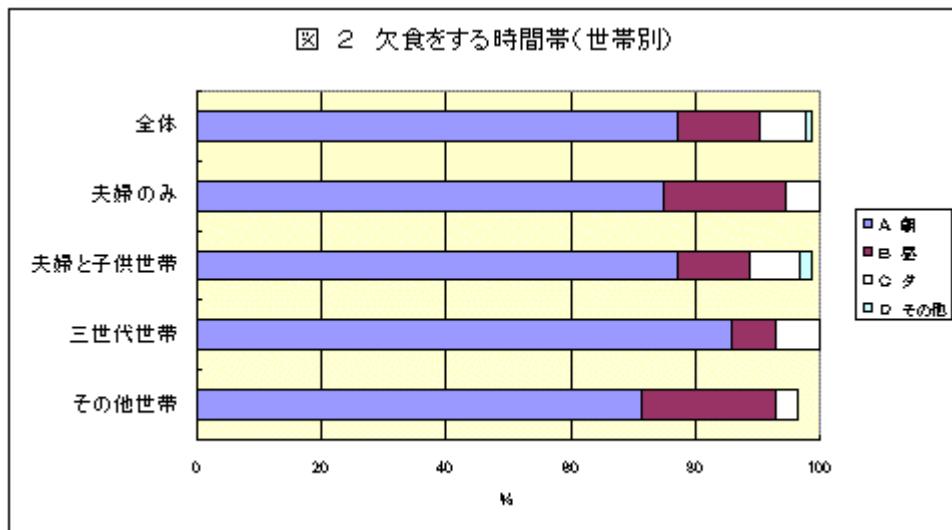
3. 欠食、間食(夜食を含む)の時間帯

欠食をする時間帯

欠食をすると回答したモニター(249名)に、主にいつ欠食をするかを聞いたところ、「朝」が最も多く77.1%、次いで「昼」13.3%、「夕」7.2%となっている。

欠食を頻度別にみると、「よくする」は「朝」が最も多く91.4%となっている。「昼」は「たまにする」が多く17.3%となっている。

世帯別にみると、どの世帯も7割以上が「朝」と答えている。(表 2)



間食(夜食を含む)をする時間帯

間食(夜食を含む)すると回答したモニター(799名)に、主にいつ間食(夜食を含む)をするかを聞いたところ、「昼食と夕食の間」と答える人が最も多く67.0%、次いで「夕食後寝るまで」26.3%、「朝食と昼食の間」3.3%となっている。

間食(夜食を含む)を頻度別にみると、「よくする」、「たまにする」は「昼食と夕食の間」と答える人がそれぞれ71.1%、62.9%が多いが、「夕食後寝るまで」は「たまにする」が多く31.4%となっている。

世帯別にみると、どの世帯も6割以上が「昼食と夕食の間」と答えている。

4. 欠食、間食(夜食を含む)をした結果、他の食事への影響

欠食をした結果、他の食事への影響

欠食すると回答したモニター(249名)に欠食をした結果、他の食事への影響があるかを聞いたところ、「食事の時間が不規則になっている」と回答する人が最も多く47.4%、次いで「特に影響はない」32.9%、次いで「欠食したため、他の食事を多めに摂っている」32.1%となっている。(表 3)

表 3 欠食をしたための影響度
(複数回答 単位: %)

	食事の時間が不規則になっている	欠食したため、他の食事を多めに摂っている	その他	特に影響はない
よくする	48.6	28.6	5.7	35.7
たまにする	46.9	33.5	6.7	31.8
合計	47.4	32.1	6.4	32.9

間食(夜食を含む)をした結果、他の食事への影響

間食(夜食を含む)すると回答したモニター(249名)に、欠食をした結果、他の食事に影響があるかを聞いたところ、「特に影響はない」が最も多く52.8%、次いで「間食したため、意識して食事の時は控えめにしている」27.4%、「食事の時間が不規則になっている」、「間食したため、食事があまり食べられない」それぞれ、21.4%、21.3%となっている。(表4)

表4 間食(夜食を含む)したための影響度
(複数回答 単位:%)

	食事の時間が不規則になっている	間食したため、食事があまり食べられない	間食したため、意識して食事の時は控えめにしている	その他	特に影響はない
よくする	22	21.8	24.8	4.6	54.4
たまにする	20.8	20.8	30.0	4.0	51.2
合計	21.4	21.3	27.4	4.3	52.8

5. 今後の食生活の変化

今後の食生活は現在の生活状況を踏まえてどのように変化するか聞いたところ、「現状と変わらない」と答える人が最も多く64.2%、次いで「間食の摂取量が減る」13.9%、「規則的な3食摂取に変わる」9.5%となっている。

年代別にみると、どの年代も「現状と変わらない」と答える人が最も多く、特に60歳以上では70.7%と最も高い。「規則的な3食摂取に変わる」は50代と60歳以上に多く、それぞれ11.0%、11.8%であり、「欠食が増える」は20代に多く5.9%、「間食の摂取量が増える」は20代と40代に多く、それぞれ7.4%、7.0%、「間食の摂取量が減る」は50代に多く18.7%、また、「わからない」は20代と30代に多く、それぞれ11.8%、10.4%となっている。

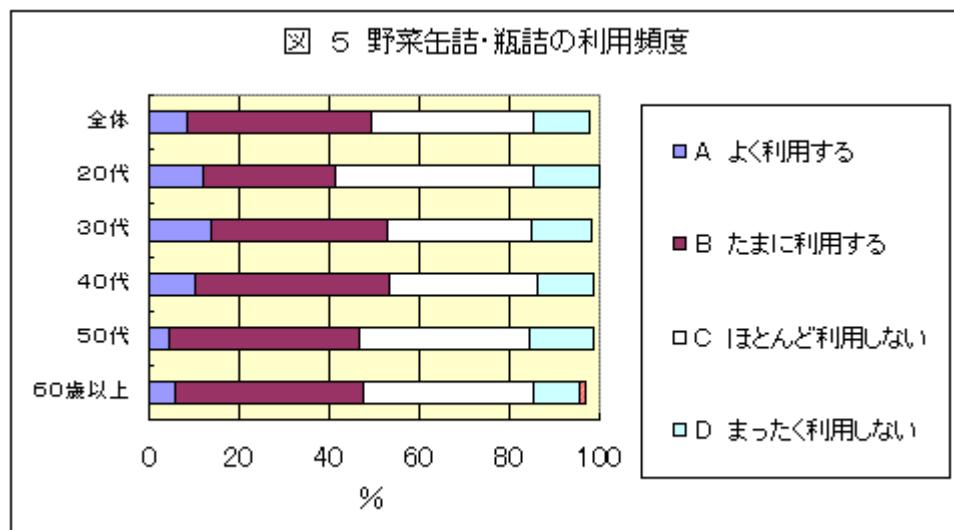
テーマ2. 野菜加工品の原料原産地表示について

1. 野菜加工品(野菜缶詰・瓶詰、トマト加工品、乾燥野菜)の利用頻度

野菜缶詰・瓶詰の利用度

野菜缶詰・瓶詰をよく利用するか聞いたところ、「たまに利用する」と回答する人が最も多く40.7%、次いで「ほとんど利用しない」36.0%、「まったく利用しない」12.5%となっており、利用する('よく利用する'と'たまに利用する')は49.3%、利用しない('ほとんど利用しない'と'まったく利用しない')は48.6%となっている。

年代別にみると、「よく利用する」は20代、30代、40代に多く、それぞれ11.8%、13.9%、10.3%となっており、「たまに利用する」は40代、50代、60歳以上に多く、それぞれ43.2%、42.0%、41.8%となっている。(図5)

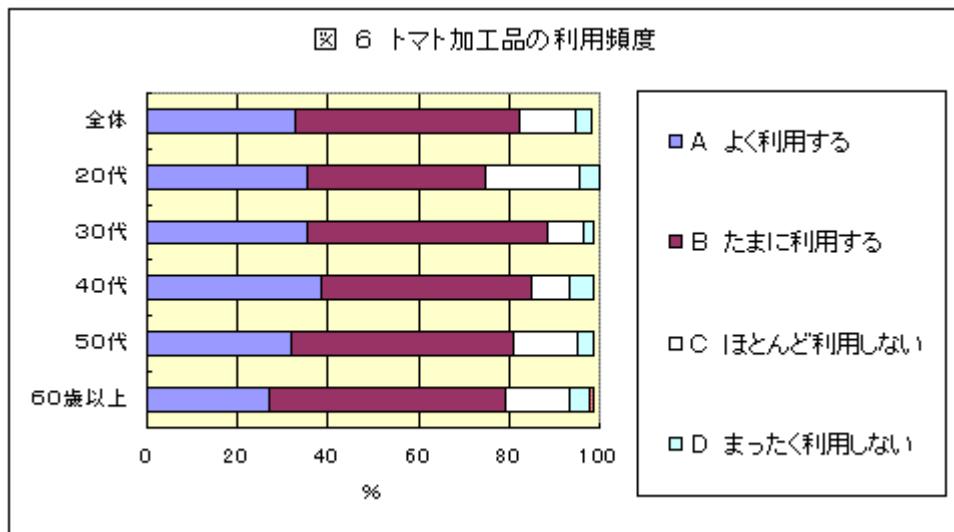


(注)グラフは左からA B C Dの順に並べている。

トマト加工品の利用度

トマト加工品をよく利用するか聞いたところ、「たまに利用する」と回答する人が最も多く49.7%、次いで「よく利用する」32.7%、「ほとんど利用しない」12.1%となっており、利用する（「よく利用する」と「たまに利用する」）は82.4%、利用しない（「ほとんど利用しない」と「まったく利用しない」）は16.0%となっている。

年代別にみると、「たまに利用する」は30代、60歳以上が多く、それぞれ53.2%、52.3%であり、「ほとんど利用しない」は20代に多く20.6%となっている。
(図 6)

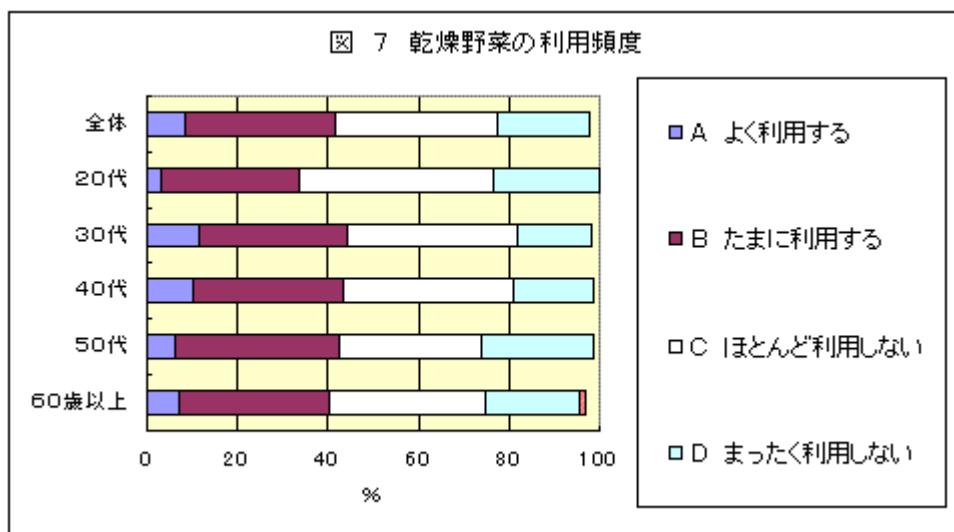


(注)グラフは左からA B C Dの順に並べている。

乾燥野菜の利用度

乾燥野菜をよく利用するか聞いたところ、「ほとんど利用しない」が最も多く35.6%、次いで「たまに利用する」33.5%、「まったく利用しない」20.4%となっており、利用する（「よく利用する」と「たまに利用する」）は41.8%、利用しない（「ほとんど利用しない」と「まったく利用しない」）は56.0%となっている。

年代別にみると、「よく利用する」は30代と40代に多く、それぞれ11.4%、10.3%、「まったく利用しない」は20代が最も多く42.6%、「まったく利用しない」は20代と50代が多く、それぞれ23.5%、24.7%となっている。
(図 7)



(注)グラフは左からA B C Dの順に並べている。

2. 野菜加工品(野菜缶詰・瓶詰、トマト加工品、乾燥野菜)の一括表示(名称、原材料、固形量、消費期限、保存上の注意、製造者等)の確認度

野菜缶詰・瓶詰の「一括表示(名称、原材料、固形量、消費期限、保存上の注意、製造者

等)」の確認度

野菜缶詰・瓶詰の「一括表示(名称、原材料、固形量、消費期限、保存上の注意、製造者等)」の確認をしているか聞いたところ、「よく確認する」とする人が最も多く57.0%、次いで「たまに確認する」27.1%、「確認しない」10.4%となっており、確認する(「よく確認する」と「たまに確認する」)は84.1%となっている。

年代別にみると、「よく確認する」は50代、60歳以上に多く、それぞれ68.9%、66.4%であり、「確認しない」は20代、30代、40代に多く、それぞれ20.6%、16.9%、14.1%となっており、年代が高くなるほど減少傾向にある。

トマト加工品の「一括表示(名称、原材料、固形量、消費期限、保存上の注意、製造者等)」の確認度

トマト加工品の「一括表示(名称、原材料、固形量、消費期限、保存上の注意、製造者等)」の確認をしているか聞いたところ、「よく確認する」とする人が最も多く60.3%、次いで「たまに確認する」28.1%、「確認しない」9.4%となっており、確認する(「よく確認する」と「たまに確認する」)は88.4%となっている。

年代別にみると、「よく確認する」は60歳以上が72.0%と最も多く、年代が低くなるにつれ減少傾向にあり、「たまに確認する」と「確認しない」は20代がそれぞれ44.1%、23.5%と最も多く、年代が高くなるにつれ減少傾向にある。

乾燥野菜の「一括表示(名称、原材料、固形量、消費期限、保存上の注意、製造者等)」の確認度

乾燥野菜の「一括表示(名称、原材料、固形量、消費期限、保存上の注意、製造者等)」の確認をしているか聞いたところ、「よく確認する」とする人が最も多く48.3%、次いで「たまに確認する」26.1%、「確認しない」17.2%となっており、確認する(「よく確認する」と「たまに確認する」)は74.3%となっている。

年代別にみると、「よく確認する」は50代、60歳以上が多く、それぞれ58.4%、1.6%、「たまに確認する」は20代、30代が多く、それぞれ38.2%、30.8%、「確認しない」は20代、30代、40代が多く、それぞれ26.5%、26.9%、20.7%となっている。

3. 野菜加工品(野菜缶詰・瓶詰、トマト加工品、乾燥野菜)原材料の原産地の参考度

野菜缶詰・瓶詰原材料の原産地の参考度

野菜缶詰・瓶詰原材料が「外国産」か「国内産」かについて関心があるか聞いたところ、「高い関心があり、商品選択の際の参考にしたい」とする人が最も多く51.8%、次いで「ある程度関心があるが、商品選択の参考までは考えてはいない」30.5%、「特に関心はない」6.0%となっている。

年代別にみると、「高い関心があり、商品選択の際の参考にしたい」は50代が最も多く63.0%、「ある程度関心があるが、商品選択の参考までは考えてはいない」は30代が最も多く40.3%、「特に関心はない」は20代が最も多く14.7%となっている。

トマト加工品原材料の原産地の参考度

トマト加工品原材料が「外国産」か「国内産」かについて関心があるか聞いたところ、「高い関心があり、商品選択の際の参考にしたい」とする人が最も多く46.9%、次いで「ある程度関心があるが、商品選択の参考までは考えてはいない」30.2%、「メーカー・ブランドを重視しており、原材料の産地にはあまり関心がない」15.4%となっている。

年代別にみると、「高い関心があり、商品選択の際の参考にしたい」は50代、60歳以上に多く、それぞれ58.9%、53.9%、「ある程度関心があるが、商品選択の参考までは考えてはいない」は20代、30代に多く、それぞれ45.6%、42.8%となっている。

乾燥野菜・原材料の原産地の参考度

乾燥野菜・原材料が「外国産」か「国内産」かについて関心があるか聞いたところ、「高い関心があり、商品選択の際の参考にしたい」とする人が最も多く47.1%、次いで「ある程度関心があるが、商品選択の参考までは考えてはいない」26.9%、「特に関心はない」1

1.6%となっている。

年代別にみると、「高い関心があり、商品選択の際の参考にしたい」は50代が最も多く58.9%、「ある程度関心があるが、商品選択の参考までは考えてはいない」は30代が最も多く37.8%、「特に関心はない」は20代が最も多く20.6%となっている。

(問い合わせ先)

総合食料局消費生活課消費経済班

担当者:古川、宮瀬

電話:(代表)03-3502-8111 (内線)3075

(直通)03-3502-1955